



# 「金融大地震とインフレの大津波」

## 未来予測への挑戦Ⅱ

本間裕 著

(社会評論社発行・本体1,700円+税)



これまでの集大成ともいえる最新著作。毎週のコラムでも繰り返し伝えられてきた、マネー経済の大膨張、日米欧政策当局の対応の誤

この本は警告の書だ。本紙読者なら先刻ご承知の通り、1999年から15年余りにわたって連載を続けてきた本間裕(宗究)氏の

膨張、日米欧政策当局の対応の誤り、歴史の必然としての東西文明移行、そして来るべきハイパーインフレへの備え——などの主張が体系的にまとめられ、同氏の思想の深淵に触れることができる。

膨大な国家債務に、税収での資金繰りが付かなくなってきた時、救いの神としてのデリバティブ(金融派生商品)依存が本格化し、今や世界のGDP(国内総生産)

この本は警告の書だ。本紙読者なら先刻ご承知の通り、1999年から15年余りにわたって連載を続けてきた本間裕(宗究)氏の

「金バブル」が起ころなかつたのは、世界的な金融コントロールが行われたため。膨大な国家債務に、税収での資金繰りが付かなくなってきた時、救いの神としてのデリバティブ(金融派生商品)依存が本格化し、今や世界のGDP(国内総生産)

約5000兆円に対し、デリバティブを含めた実体を伴わない世界のマネーが約10京円と、20倍規模に達してきた。「どのような国家も自ら破産を宣告せず、紙幣の増刷により生きながらえる」というケインズの言葉通りに、金融界では無謀な事態が進行しているとの見立てだ。地下で蓄積されてきたひずみのエネルギーも、いずれ地表に放出されることになるのは、大地震のメカニズムにも通じる。ニコソン・ショック以来の信用本位制崩壊を憂える本間氏の「未来予測」や、個人のできる対処法について、ぜひ本書の一読を勧めたい。(A)

約5000兆円に対し、デリバティブを含めた実体を伴わない世界のマネーが約10京円と、20倍規模に達してきた。「どのような国家も自ら破産を宣告せず、紙幣の増刷により生きながらえる」というケインズの言葉通りに、金融界では無謀な事態が進行しているとの見立てだ。地下で蓄積されてきたひずみのエネルギーも、いずれ地表に放出されることになるのは、大地震のメカニズムにも通じる。ニコソン・ショック以来の信用本位制崩壊を憂える本間氏の「未来予測」や、個人のできる対処法について、ぜひ本書の一読を勧めたい。(A)

出所 日本証券新聞(2015年1月26日号)